

西条廃寺は法隆寺式か

57年度西条廃寺発掘調査

市教委では、神野町西条北山に所在する西条廃寺の発掘調査を将来の史跡公園計画にそなえ、昭和55年度から3か年の継続事業で国、県の補助を得て実施してきましたが、ことし2月で3か年の調査が終了しました。

調査の結果、中門・塔・金堂・講堂ならびに回廊と考えられる一本柱列などの遺構が検出され、ほぼ寺院の主要伽藍が判明しました。

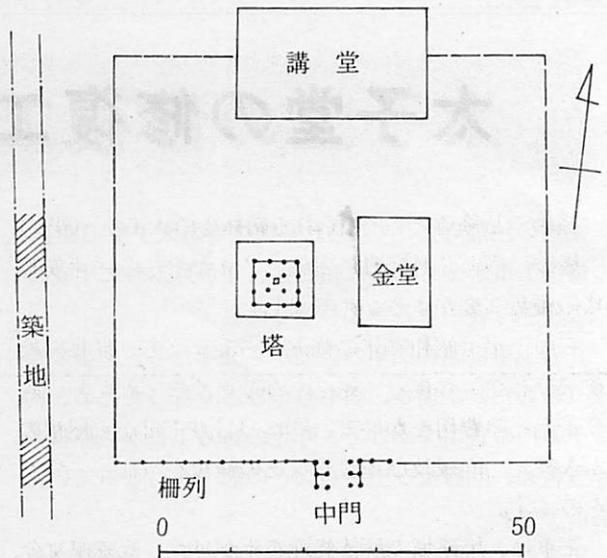
この廃寺は東に金堂（南北15m・東西10m）、西は塔（一辺10.8m）、その後方に講堂（南北15.6m・東西26.3m）を配置する法隆寺式の伽藍配置をなす寺院であるが、金堂は南北に長く、このような配置は全国的にみても珍らしくあえて類例を求めるなら、福岡県、観世音寺の反転と云えましょう。

又基壇は塔、金堂とも瓦積の技法で造られていました。

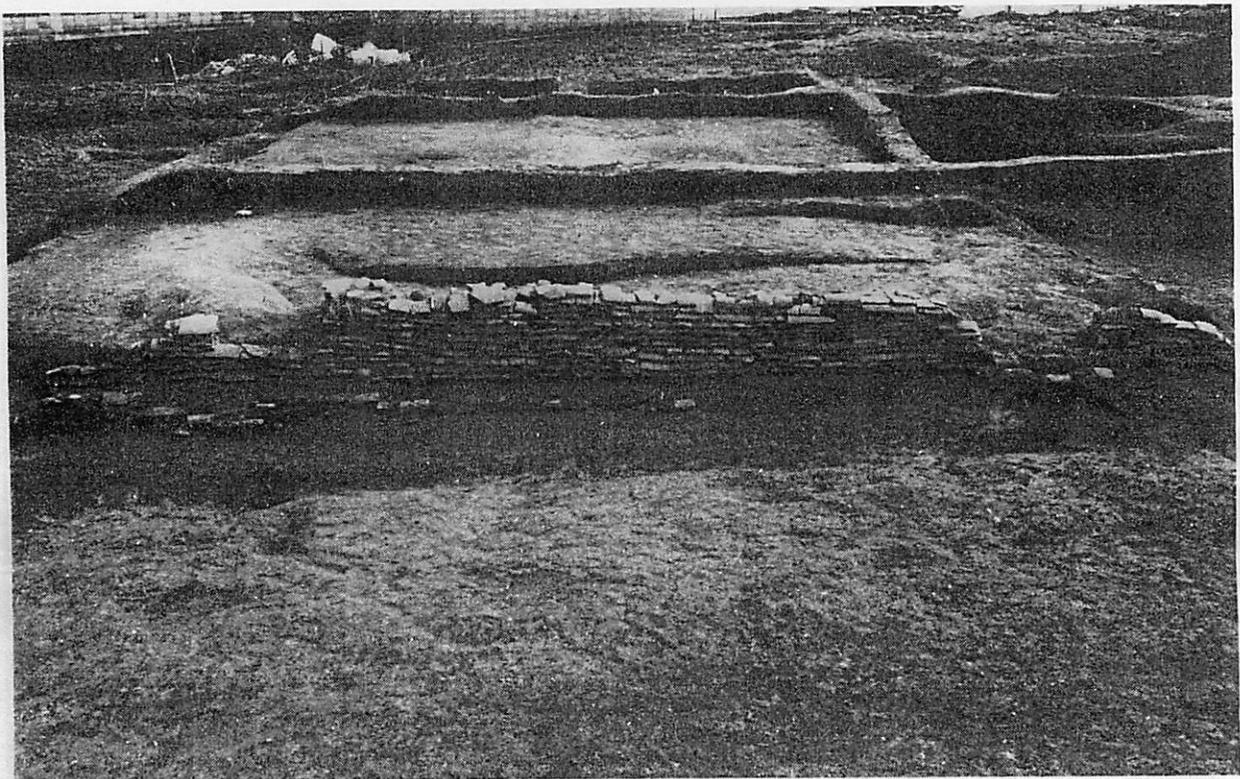
昭和57年度調査による主な出土遺物には、塔相輪の九輪や風招（風鐸につけたもの）などがありました。

以上の調査結果から西条廃寺は南北100m東西約80

mの寺域をもち伽藍配置や出土瓦などから奈良時代前期（白鳳）末から平安時代初期の法隆寺との関連が推察される寺院であることがわかりました。



伽藍配置図



金堂瓦積基壇

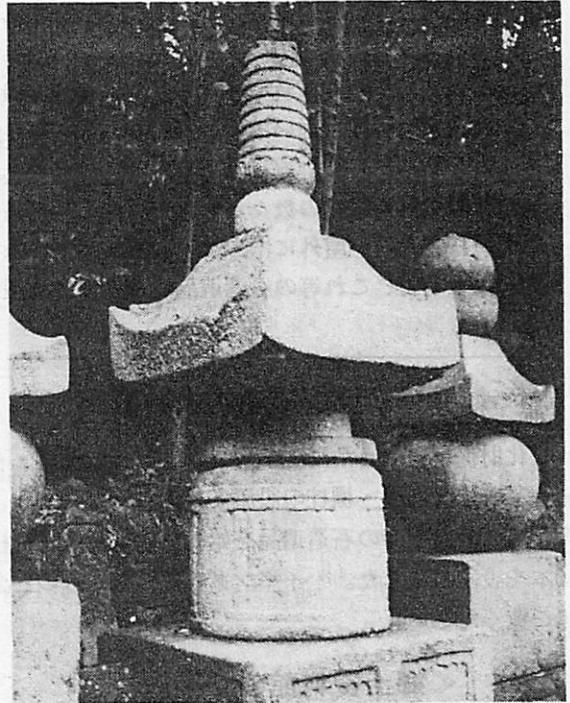
石造文化財分布調査はじまる 今年より3年計画で

行きずりの道ばたや街角に忘れられたように立つ道標、あるいは社寺を訪れたとき目にする大きな鳥居や宝篋印塔など石で造られた文化財は数多く市内に残っています。とくに「播磨の石仏」と俗称される凝灰岩（竜山石）を利用した石仏は、全国的にみてもこの地方の分布は濃密です。

石造文化財は、それ自体の形状、材質などが調査研究の対象となることは当然ながら、それを造った工人たち、あるいはそれを造らしめた民衆の宗教意識など多面的な研究が行なわれています。

そこで教育委員会では、このような石造文化財を保護し、あるいは研究者の利便を図るため、一件ごとに台帳を整備し、現地では説明板を増設しています。

さらに市民の皆さんに、お手軽に石造文化財の全容をご理解いただく一助として、写真を重点的に配した報告書の刊行を計画し、いまその準備をすすめています。



須恵質製の請花が出土

志方町大沢の採石予定地内に存在する古窯跡群の規模及び性格を明らかにするため、昭和55年度より3か



7号窯 出土状況

札馬古窯跡群 3次発掘調査

年計画で発掘調査を実施していましたが、このほど最終年次の調査が終了しました。

今年度は昭和57年12月より58年1月にかけて、須恵器窯12基を対象に調査を行ないました。そして47号窯の灰原からは、瓦と須恵器がともに発見され、瓦陶兼業窯であることが確認されました。さらに、その灰原と思われる地点において、須恵質製の請花（塔の相輪の一部）と考えられる遺物を採集しました。

相輪の一部としては、石川県小松市、大阪府堺市などの窯跡から出土例がありますが、陶製の請花の出土は全国でも初めてのことであり、注目すべきものである。また、7号窯は採石工事の進展による破壊の危険度が高いため、全面調査を実施しました。この窯は窯体の全長、6.6 m、床幅 0.95 m をはかる登窯で、貼壁の厚さは約10cm、2・3度の操業が行われたものと思われます。出土した杯の底部には糸切り、へら切りの両手法がみられ、10世紀後半頃のものと考えられます。

このように、3か年の調査によって、未発見の窯跡が多数確認され、さらに、8～12世紀にかけての窯跡の資料を得ることができ、その詳細な型式編年が可能となったことは、この調査の大きな成果と言えよう。

身近な文化財を大切に

西の法隆寺と呼ばれて、国宝の本堂や太子堂をはじめ多数の重要文化財がある名刹鶴林寺は、文化都市加古川の顔として広く人々に知られている。顔があれば身体も必要で、手足に当る庶民の文化遺産に石造文化財があります。現在市内には県指定石造文化財 17 件を含め百余基の多きを数える慶長年間（約 670 年）以前の石造遺品が残されています。石の産地宝殿を控えた播州加古川は、全国的に見ても石造遺品の宝庫とも呼べる地域になっています。長野県の道祖神は知っていても、市内の代表的な石棺仏を知らない人が沢山おられます。テレビや旅行雑誌に報道されなくとも、地元にある素朴な石仏を訪ねてみてください。数百年の風雪に耐えた石造物の数々、しかし石造品は永遠のものではありません。石の命にも限りがあるのです。まして、ほとんどが屋外にあって、破壊や紛失の恐れが多い遺品であります。皆様方の手厚い保護と変らぬ信仰心に依って、これ等の石造遺品を後世に伝え残したいものです。

加古川町粟津 三 浦 孝 一

《文化財保護説明板を設置》

文化財保護啓もう活動の一環として毎年、遺跡・石造遺品等に説明板・標柱の設置を行なっていますが、今年も大野常楽寺の石造遺品を始め説明板32枚、標柱10本を設置しました。ハイキング等にお出かけのときにご覧ください。

《郷土資料館のご案内》

郷土資料館では市内から発掘調査等によりみつかった貴重な資料を展示しています。

開館日 毎週月曜日～土曜日（祝日及び年末・年始は除く。）

（午前10時～午後4時、但し 土曜日は12時まで）

展示資料 （民俗文化財）日常生活用具・農耕用具・酒造用具・その他の諸職種の用具 約754点

（考古資料）縄文晩期・弥生時代の土器 石器、木器・古墳時代の鏡、石製品、銅鏃、鉄器、装身具、埴輪、奈良、平安時代の瓦、須恵器など 21,000点

場 所 郷土資料館（文化課内） 23-3845

《文化財写真展のおしらせ》

文化財は、私達が祖先から受けつぎ、後世に残すべき貴重な財産です。文化財保護協会では保護啓もうのため、文化財写真を募集していましたが、多数の応募がありましたので下記のとおり作品の展示を行います。お気軽に御覧ください。

日 時 昭和58年4月1日（金）～4月7日（木） 午前9時～午後5時
場 所 中央公民館 1階市民ホール

《民俗文化財寄贈者名》（敬称略）

| | |
|---------|---------|
| 伊 藤 健 由 | 東神吉町神吉 |
| 佐 伯 美代治 | 平岡町土山 |
| 加 古 ますえ | 加古川町粟津 |
| 杉 本 茂 春 | 平荘町小畑 |
| 大 西 権 次 | 野口町良野 |
| 渋谷 哲 男 | 野口町長砂 |
| 上 田 栄 次 | 加古川町溝之口 |
| 記 村 勇 | 東神吉町升田 |

頒布図書

| | | |
|---------------|-------|---------|
| 文化財調査報告書 | 印南野 2 | 1,000 円 |
| " | 中 山 | 1,000 円 |
| " | 岸 | 200 円 |
| " | 広尾東 | 500 円 |
| " | 山ノ上 | 200 円 |
| " | 札馬(Ⅰ) | 200 円 |
| " | 砂 部 | 1,500 円 |
| " | 東 中 | 1,200 円 |
| 郷土のおはなしとうた | 3集 | 600 円 |
| 加古川市誌第2巻(別府町) | | 5,000 円 |

